



第8回社叢インストラクター資格認定試験問題



2018年3月3日 日比谷図書文化館にて実施

筆記試験Ⅰ【10:35～11:35】：下記のうち1題を選択し、指定の字数で記述（課題は事前に提示）配点=100

論文1. 一般に、社叢の中には無闇に立ち入るべきでは無く、また一木一草に手を触れてもいけないとされてきた。これは、信仰上の理由ばかりで無く、森の生態系を守るという観点からも意味深いことである。植生管理学では放置管理と呼ぶことがある。立ち入りを控えることが、森の生態系保全にどのように役立つか、1,500字以内で説明せよ。下記のキーワードを用いること。

キーワード：極相林、植生遷移、階層構造、土壌層位、落葉、土壌動物、菌類、根系、ラン、林床植物、菌根

論文2. わが国は、今後、本格的な少子化社会を迎え、人口が減少するとともに、東京への一極集中により、産業、経済、人口などの一層の偏在が懸念される。

江戸期以降の神社（鎮守の森）数の大きな変遷の傾向とその背景の理由に触れて、今後の動向を予測するとともに、これまでの変遷との違いについて述べなさい。

また、上記の社会情勢が生み出す鎮守の森の課題について、大都市地域及び地方都市地域、中間山漁村地域のどれか一つのエリアもしくはそれらの比較検討を対象として取り上げながら、まとめるとともに、解決のアイデアについて1,500字程度で考えを述べなさい。

筆記試験Ⅱ【11:45～12:45】 配点=100

1. 次の用語を50字程度で説明しなさい。1)胸高断面積合計 2)ギャップ 3)森林の相対照度 4)択伐天然更新

2. 以下の(1)～(5)の日本の近代の神社と社叢に関する短文について最も適当な語句を選択し、○をつけなさい。

(振り仮名は省略)

(1) 神社と社叢の有りようが大きく変わった時期に、明治から大正にかけての時代がある。いわゆる神社の合祀だが、当時の国家の政策によって多くの神社が合祀され、江戸時代には(A, 50万社 B, 20万社 C, 10万社 D, 7万社)ほどあった神社数はほとんど半減するにいたった。

(2) この国家的に押しすすめられた合祀には、反対する人々もあった。いわば長い時代にわたってそれぞれの地域において地元日本人の精神的支柱をなしてきた神社だから、合祀、つまり合併によって廃止される神社も出ることに伴う弊害が説かれたのである。その急先鋒ともいべき人物が(A, 折口信夫 B, 伴信友 C, 南方熊楠 D, 宮本常一)で、柳田國男とのそれについての往復書簡はよく知られている。

(3) 必ずしもその原因というわけではないが、明治初頭、正確には慶応4(1868)年に発布されたいわゆる(A, 御成敗式目 B, 大教宣布 C, 天皇人間宣言 D, 神仏分離令)が大きな影響を及ぼした。国家的な意味では合祀によって神社数は減少し、結果として維持が容易になるように合併されたということになる。

(4) では明治以後、実際に神社が国家的に手厚く保護されたのかというと、かならずしもそうではなかったようだ。特に(A, 上知令 B, 人返し令 C, 株仲間解散 D, 諸宗寺院諸法度)とも称される政策の発布は、神社の維持・経営に直接に関係しない土地はすべて国家のものとしたので、寺院もそうだが神社もいちじるしい被害を受けた。大きな神社は全国に所領を持っていたが、それらはすべて国家に没収されたのである。

(5) こうした一連の明治国家の宗教政策において、大きな影響を与えたのは、(A, 朱子学 B, 国学 C, 陽明学 D, 古学)の思想である。とりわけ急進的な政治思想を持つ平田篤胤の学派の人々が明治政府の官僚にも進出し、近世から近代への時代転換における宗教政策を動かした。

3. 下記の樹木について、科名、生活形(常緑か落葉か)、種子散布型(重力(食べ残し)・鳥・風)を記載しなさい。解答例：スダジイ：科名=ブナ科 生活形=常緑 種子散布型=重力

ヤブニッケイ サカキ ムクノキ アカメガシワ モミ

4. 日本の社叢でよく見られるスダジイ林、アカガシ林、タブノキ林、クロマツ林の立地の記載として最も適当なものは、下記のア～エのうちどれか。()

(ア)アカガシ林は低海拔の山腹斜面に、タブノキ林はやや海拔の高い山腹斜面に、クロマツ林は臨海部の沖積地に、スダジイ林は海岸砂丘上に多く分布する。

(イ)タブノキ林は低海拔の山腹斜面に、アカガシ林はやや海拔の高い山腹斜面に、スダジイ林は臨海部の沖積地に、クロマツ林は海岸砂丘上に多く分布する。

(ウ)スダジイ林は低海拔の山腹斜面に、アカガシ林はやや海拔の高い山腹斜面に、タブノキ林は臨海部の沖積地に、クロマツ林は海岸砂丘上に多く分布する。

(エ)スダジイ林は低海拔の山腹斜面に、タブノキ林はやや海拔の高い山腹斜面に、アカガシ林は臨海部の沖積地に、クロマツ林は海岸砂丘上に多く分布する。

5. 鎮守の森は、禁足地などを除き、必ずしも原生な自然がそのまま維持保全をされているものではなく、人の手により植栽された樹木が数多く見られる。このため、本来の気候条件では自生しない樹木も取り入れられていることが多い。神社で玉串などの神事に使用され、境内地においてもよく見ることが出来るサカキ、ヒサカキについて、本来の分布域としてどちらに該当するか記入しなさい。また、地域によっては気候特性や神社の由来により、これらの植物の代わりに他の樹木を玉串などに利用することがある。他の樹木の事例について、種類名を一つ記載しなさい。

主として静岡県東部から東日本の地域()主として静岡県西部から西日本の地域()

サカキ、ヒサカキの代わりに地方や神社により玉串などに利用される樹木()